



創設10周年を記念して隊員から募集し選考されたシンボルマーク

歯車は整備機材と補給部品を、5つの星は補給整備支援を行う装備の5口職種(武器、通信、施設、需品、化学)を富士山の図柄は富士山に所在する富士駐屯地を、それぞれイメージしている。

大隊本部 本部付隊

第1係、第2・3係、第4係主任のもと、人事・総務、情報保全、教育訓練・支援業務、自隊管理等、各業務活動を実施している。大隊の心臓部であり、部隊運営に大きな責任を持つ。



創設10周年!

陸上自衛隊 東部方面後方支援隊 第105全般支援大隊

今年、創設10周年記念を迎える陸上自衛隊東部方面後方支援隊第105全般支援大隊。その任務は(1)富士地区(静岡県・山梨県)に所在する大臣直轄部隊、方面直轄部隊及び後方支援隊内の直接支援に任ずる整備部隊に対する整備用部品の補給(2)直接支援部隊等を保有しない部隊に対する整備・回収(3)富士地区所在の庁用車(民間ナンバー車両)の整備(4)直接支援部隊に対する増援(5)富士地区における通過部隊支援である。霊峰富士のもと富士駐屯地に所在する隊員たちは、今日も被支援部隊のために任務を遂行している。

第105全般支援大隊沿革	
H14.3.24	第105全般支援大隊発足
H15.3.28	大隊1周年記念行事
H16.10.24	新潟県中越地震災害派遣
H17.6.16	自動車分解整備事業の認証及び指定自動車整備事業の指定
H18.6.20	イラク派遣隊員出国
H18.9.15	イラク派遣隊員帰国
H18.10.30	第303工場落成式
H19.2.28	補給管理システム運用開始
H19.3.10	大隊5周年記念行事
H19.3.13	重装輪回収車配置
H19.7.17	新潟県中越沖地震災害派遣
H21.4.27	新庁舎に本部機能が移転
H22.9.6	ハイチ派遣隊員出国
H23.3.18	ハイチ派遣隊員帰国
H23.3.21	東日本大震災災害派遣
H24.3.4	大隊10周年記念行事

信頼



ハイチ派遣



「他者の追従を許さない」優勝5連勝
平成23年度東部方面後方支援隊持続走競技会 部隊対抗 大隊等の部 優勝

本部付隊は、大隊本部を支える底力であり、仲間を互いに尊重し合って、大隊強化のために信念を持って業務に取り組んでいる。

観閲式 支援



伝統ある自衛隊記念日記念式典における観閲式を全力で支援している。観閲式の成功に向け、一致団結して臨んでいる。

「28秒」。隊員達が3週間に及ぶ錬成の末、たどり着いた車両回収所要時間である。観閲式に懸ける熱い思いは、まさにこの数字に集約されていると言っても過言ではない。

総合火力 演習支援



国内外多くの人々が注目する富士総合火力演習。第105全般支援大隊はその一部の支援を実施している。

24時間態勢の補給支援。使用者の要望に基づき、昼夜分かたず所要の部品をいち早く部隊へ補給する。



業務部品の補給、需品整備、火砲の命中精度に大きく関する照準具の整備、物品の輸送など、多岐にわたる支援任務を、使用者第一主義を信条に、大隊一丸となって今後も任務を遂行する。

訓練



野戦兵站部隊として、創隊以来訓練を積み重ねてきた。富士山での山岳機動訓練及び実業務の場を活用した訓練等々、多様な任務に対応する訓練を実施している。

補給中隊

現在、補給中隊は中隊長大塚3佐を核心として富士地区周辺にある47個部隊、2個地方協力本部に対して部品等の補給支援を実施している。平成22年度の補給実績は約2万品目、22万6千点にも及ぶ部品交付の他、24時間態勢で行われる総合火力演習の補給支援や、春・秋季演習場定期整備の補給支援、東富士演習場に来る多数の部隊や通過する部隊のすべての支援を行うなど、多岐にわたる補給支援業務を中隊長要望事項「融和団結」・「創意工夫せよ」を実践し、日々業務に励んでいる。



10周年に先駆けて、中隊のシンボルマークを作成(左写真)

オリジナルシャツを作り、大隊の持続走競技会では全員で着用して競技会に参加した(右写真)



新庁舎屋上で、中隊全員で集合写真
東方定期便にて受領した部品使用者の事を第一に考え、即時補給と不符号なしを目指し、日々の業務を実施している。

災害派遣



【新潟県中越地震】平成16年10月、創隊初となった災害派遣では、給食及び輸送支援のほか、補給・整備支援を実施した。

【新潟県中越沖地震】平成19年7月、中越沖の災害派遣では、給食及び天幕支援のほか、路傍整備所での整備支援を実施した。



【東日本大震災】平成23年3月21日～6月13日までの間、延べ190名が福島県内において東部方面生活支援隊として主に被災された方々に対する民生支援にあたった。



「ありがとう」感謝の言葉と笑顔が隊員たちの原動力になる。

整備中隊



隊員たちは被支援部隊の装備品の可動率を最高度に維持することを使命とし、その責任にこたえるために今日も整備技術の練磨に励んでいる。



「使用者第一主義」を胸に被支援部隊の立場に立ち、整備を「実践」している。



富士地区(静岡県・山梨県)に所在する5つの駐屯地に属する約50の部隊及び機関、そして富士演習場を利用する部隊に対し、整備・回収支援を実施している。その活躍の場は広範囲に及び、支援対象装備は多種多様。隊員1人1人に求められる整備特技は多岐にわたる。

創設10周年 記念行事

第105全般支援大隊創設10周年記念行事が富士駐屯地で催された。記念式典には、歴代大隊長をはじめ、小山町議会議員、関係企業等並びに各被支援部隊長、隊員家族ら部内外の来賓が多数出席。10周年記念にふさわしい盛大な式典となった。



10周年の節目を迎えた大隊。講堂に整列する隊員達の一糸乱れぬ堂々たる姿は、先人が築き上げ、脈々と受け継いで来た精神と良い伝統の賜物である。



【原点帰帰】「挑戦」大隊長が記念すべき10周年の節目に掲げた大隊の抱負である。第105全般支援大隊は、後方支援部隊としての本質を再認識し、新たな分野へ果敢に挑戦する。



第105全般支援大隊長 2等佐佐 三木太郎

使用者第一主義 桜梅桃李